



神山天文台マスコットキャラクター
ほしみ〜るちゃん®

Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 企画展関連講演会 (ギャラリートーク) 14:00-16:00
3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9
10 	11	12	13	14	15	16
17 	18	19	20	21	22	23
24 	25	26	27	28	29	30
31						

施設見学 9:00~16:30
土曜日は天体観望会実施日のみ 14:30~17:30

天体観望会 19:00~21:00
(定員あり / 要予約)

休館日

月の形 (満月・新月・半月および観望会実施日)

事務室閉室日
(問い合わせ等対応不可)

施設見学

1階展示フロアでは企画展「星をみる鏡 日々を写す鏡～京都で生まれた反射望遠写真機～(～6/19)」、また、3階では荒木望遠鏡(国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡)が見学可能です。(常設展は企画展期間中休止)

天体観望会

荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察することができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。また、宇宙の3D映像上映会を開催します。(コンテンツは予告なく変更する場合があります)

よくある質問?

観望会でよく聞かれる質問にお答えします★

① 春の星の見つけ方のポイントは?

北の空の高いところにひしゃくの形の北斗七星を見つけましょう。ひしゃくの持ち手のカーブを伸ばして行くと、東の空にオレンジ色に輝く星アルクトゥルス(うしかい座)があり、さらにカーブを伸ばして行くと、南東の空で白く輝く星スピカ(おとめ座)があります。このカーブは春の大曲線と呼ばれます。、街明かりの少ないところでは、スピカの先に小さな四角形に星が並んだからす座が見つかります。

② 荒木望遠鏡でどれくらい遠くまで見られるの?

専用の観測装置を使用すると、超新星のような明るい天体は50億光年先まで観測することが可能です。天体観望会では、条件がそろえば2300万光年先のりょうけん座M51(子持ち銀河)や14等級の明るさの冥王星までを見ることが出来ます。

③ 流れ星って本当に星が落ちてくるの?

流れ星の正体は、夜空に輝いている星(恒星)が降ってきているわけではなく、宇宙にただよっている小さなチリです。それらが猛スピードで地球の大気にぶつかって光ります。チリの大きさは数ミリから数センチくらい、重さも1円玉より軽いものがほとんどです。ほとんどのものは地上に届く前に蒸発してしましますが、まれに大きなものが地上まで降ってくることがあります。これが「隕石」です。

企画展

星をみる鏡 日々を写す鏡

～京都で生まれた反射望遠写真機～

3月21日(土)～6月19日(金)開催中!

京都で独自に発展した反射望遠写真機の歩みとともに、関西光学工業株式会社の所長としてその技術を支えた宮澤望が遺した記録と資料を中心に、その軌跡を紹介しています。

企画展関連講演会「写真とカメラの歴史」を下記の日程で開催いたします。

日程: 5月2日(土) 14時～16時

会場: 京都産業大学 神山天文台

担当学芸員による
ギャラリートークも行います。

講師: 井口 芳夫氏(日本カメラ博物館 博物館課主任・学芸員)

※講演会は予約制です。詳しくは神山天文台のホームページをご覧ください。



発行 京都産業大学 神山天文台
〒603-8555 京都市北区上賀茂本山
☎075-705-3001
🌐https://www.kyoto-su.ac.jp/observatory/

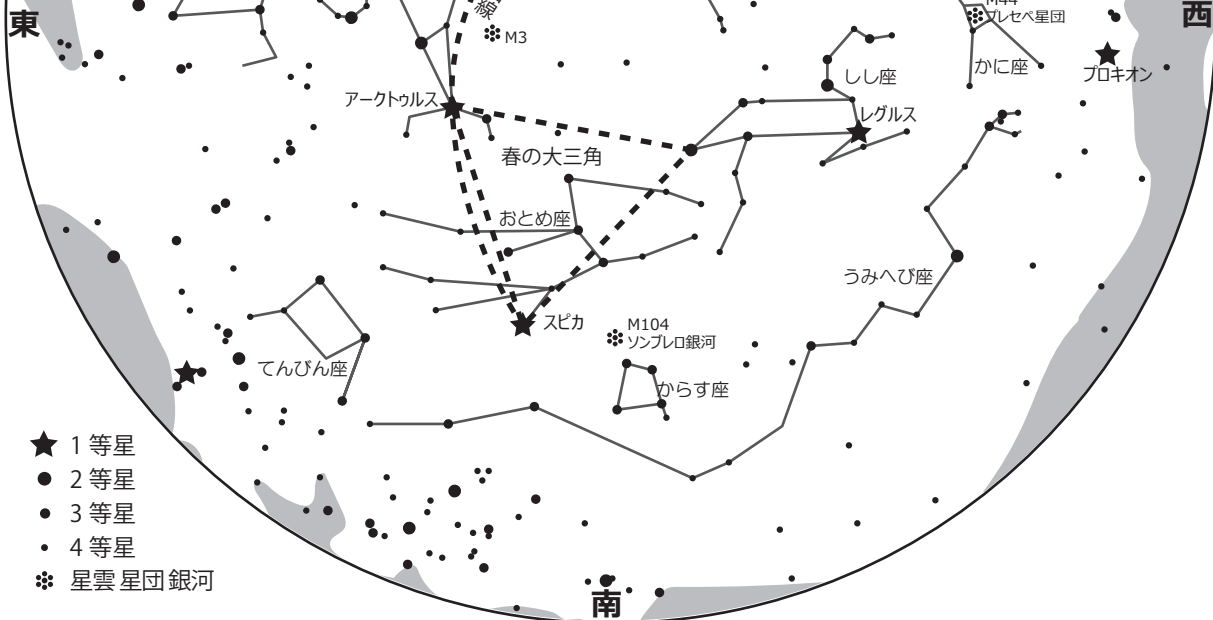
【公式 SNS】



カンコー 2600/日本カメラ博物館所蔵

5 2026年 月の星空

上旬 22時ごろ 中旬 21時ごろ 下旬 20時ごろ (ステラナビゲータ8をもとに作図)



- ★ 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- ※ 星雲 星団 銀河

大きな星座

きらびやかな冬の星座が西の空へ傾くと、春の空はとたんに星が少なく、のんびりとした印象になります。88ある星座のうち、大きな星座ベスト3が春の空に勢ぞろいしてます。3位はおおぐま座。熊のしっぽが「北斗七星」です。2位はおとめ座。手に持つ麦の穂のところに一等星「スピカ」が輝きます。堂々の1位はうみへび座。東西に長い姿なので、頭から尾までを一度に見られる期間はそう長くありません。

2026年5月 見ごろの天体

★二重星 (にじゅうせい) : Double star

重星は、肉眼で見ると1つの星ですが、望遠鏡を覗くと2つの星に見えます。北斗七星を形作るおおぐま座と(ゼータ)星(ミザール)は、肉眼でもアルコルとペアになっているように見えますが、同じ方向に偶然星がある「見かけの二重星」か、お互いの周りを回りあう「連星」かはまだわかっていません。ミザール自体は2つの星(ミザール A、B)が回りあう連星で、望遠鏡を使うとミザール A、Bの2つを見ることができます(実際にはさらに2つずつの星が回りあっていて、4つの星の連星系だとわかっています。)その他、りょうけん座コル・カロリやしし座アルギエバも観察しやすい二重星です。

★惑星状星雲 (わくせいじょうせいうん) : Planetary nebula

太陽程度の重さの恒星は、一生の最期に水素ガスを使い果たして赤色巨星となった後で、外側のガスを周囲に放出します。この放出されたガスが、中心に残った星の残骸が放出する紫外線を受けることで輝いて見えるのが、惑星状星雲です。望遠鏡で見た時に、まるで惑星のように丸くほんのり色づいていることから、このような名前がついていますが、その正体は太陽のような恒星が終末期を迎えた姿です。おおぐま座には、ふくろう星雲と呼ばれる惑星状星雲 M97 があり、よく晴れた夜に望遠鏡を向けると、丸い形のガスの中に小さな黒い丸が2つ見える様子が、ふくろうの顔のように見えます。夜空が真っ暗になってから、惑星状星雲の淡い輝きをお楽しみください。

★赤色巨星 (せきしょくきょせい) : Red giant

恒星は安定して輝く時期が長く続きますが、恒星の内部の水素を使い果たすと恒星の内部が縮み始め、その際に発生する熱によって外側のガスはさらに外へと膨張し、巨大な星になります。ガスが膨れると表面の温度が低くなるため、赤色に見えます。うしかい座のアルクトゥルスは赤色巨星で、直径は太陽の約20倍です。

★球状星団 (きゅうじょうせいだん) : Globular cluster

球状星団は、数十万の恒星の集まりです。私達の銀河系の中には、約150個の球状星団があります。球状星団の中の星たちは非常に高齢で、100億歳以上の星もたくさんあります。夏には、ヘルクレス座のM13、りょうけん座のM3、へび座のM5などの球状星団が見られます。